

Olympic
Movement

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

北海道 士別市立士別南中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年8月31日 (金)
- ク ラ ス : 2年A組 (34名)、2年B組 (33名)
- オリンピアン : 桧野 真奈美 先生 (ボブスレー)



■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、2時間の授業を通して桧野先生も全力で臨むので皆にも全力で取り組んでチャレンジしてほしいと伝える。
- ・オリンピックシンボルや3つのオリンピックバリュー、近代オリンピックを復興させたピエール・ド・クーベルタン先生のオリンピックに対する思いを解説。
- ・準備運動の後、ラダーを使用したトレーニングを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・5班対抗でそりリレー (全3回) を実施。各回終了後、結果を発表。
- ・ルール : ①2人組でそり (バスマット) の上に座った状態で乗り、もう一人が腰に紐をかけて引っ張る。
②約8m先に置かれたコーンに到着したら役割を交代し、スタート地点に戻る。③最後の2人がゴールしたらその場で全員座る。
- ・桧野先生から、早く滑るコツや3つのオリンピックバリューを意識しながら取り組むよう伝える。

4. まとめ



- ・競技に順位はつきものだが、それ以上にどのように取り組めたか、全力で臨めたかがより大切であり、失敗してもその原因をちゆい級することで次にステップにつながる。
- ・座学の時間では、さらにオリンピックバリューについて学んでいくと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・映像や写真、用具を見せながらボブスレーのルールや競技特性について解説。
- ・日本で過去に開催されたオリンピックの開催地や世界の開催地について説明。
- ・オリンピックバリューの意味や松野先生の経験に基づくオリンピックバリューについて説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：学校祭の合唱で金賞を獲得するために何をすればよいか、何が必要かを書き出してみる。
 発表：各班の代表者1名が前へ出て発表。(抜粋、順不同)
 エクセレンス：「全力で取り組む」「金賞を獲得するという目標を持つ」「自主練習を行う」「苦手なところを練習する」「朝練習を行う」等
 フレンドシップ：「アドバイスし合う」「チームワークを意識して大切に」「協力する」「周りに気配りする」等
 リスペクト：「自分以上に誰かの為に取り組む」「責任を持つ」「時間を大切に」「協力してくれる人に感謝する」等

4. まとめ



- ・東京2020大会が2年後に迫っているが、オリンピックは出場する選手だけでなく、応援する人やサポーター等さまざまな人の存在によって成り立っている。この授業をきっかけに興味を持って関わってほしい。
- ・挫折という言葉はネガティブなイメージがあるが、絶望するような状況であっても、少しずつ頑張ることで振り返れば、それが一つの通過点となる。これからは思い通りにならないことに直面する可能性もあるが、そんな時には今日より、明日と考えると頑張るべきだと伝え、授業終了。



■ 集合写真
2年A組



2年B組





■ 記念品贈呈

2年A組



2年B組



■ 修了証贈呈

